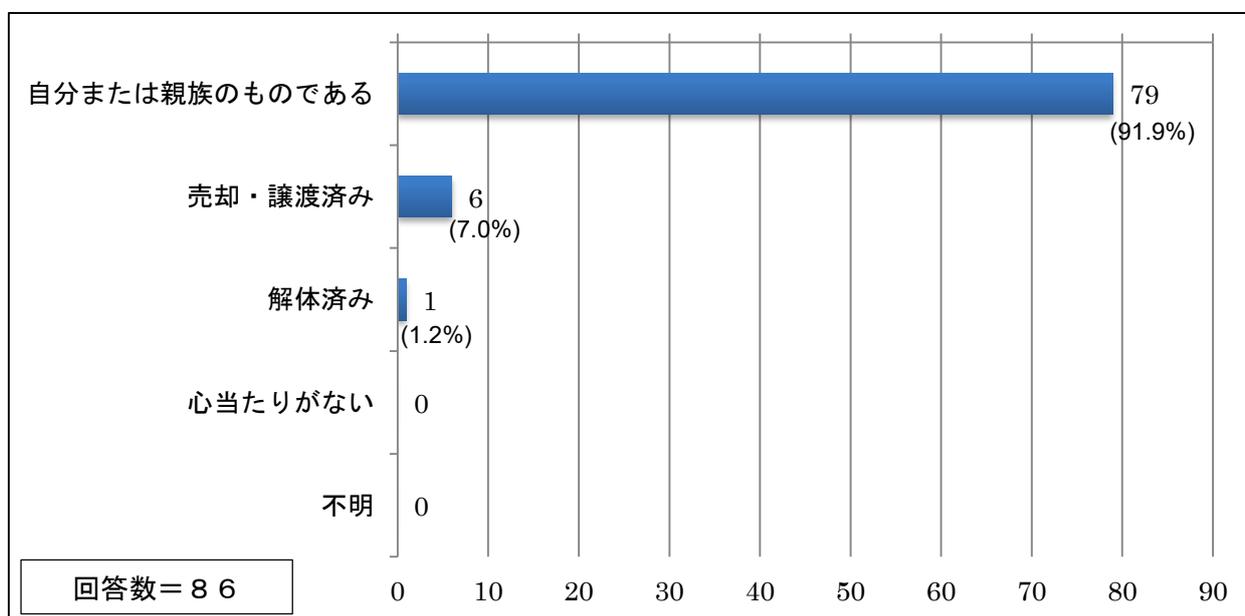


空き家の実態・意向に関するアンケート調査について (平成29年12月20日現在)

郵送数	225通 (物件数187戸)
未到着数 (宛名所不明)	63通
到着数	162通
回答数	86件 (物件数81戸)
回答率	53%

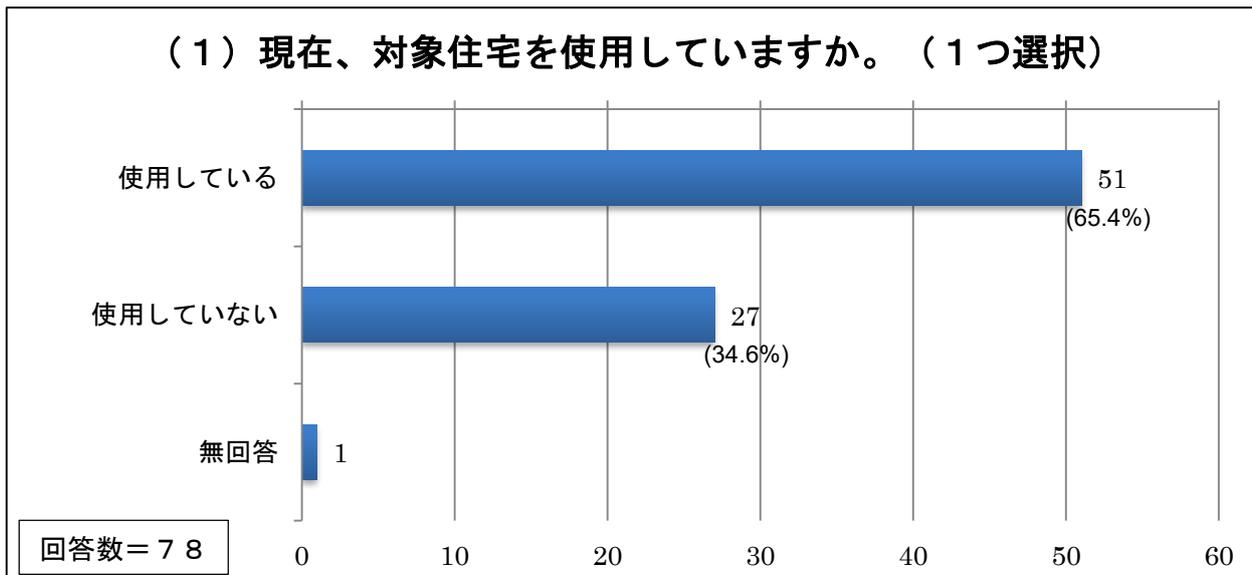
問1 対象住宅について、確認します。(1つ選択)



「自分または親族のものである」という回答が86件中79件を占め、これらの所有者については、次の【問2】へ進むようにした。

「売却・譲渡済み」「解体済み」「心当たりがない」「不明」と回答した場合は、本設問をもってアンケートを終了とした。

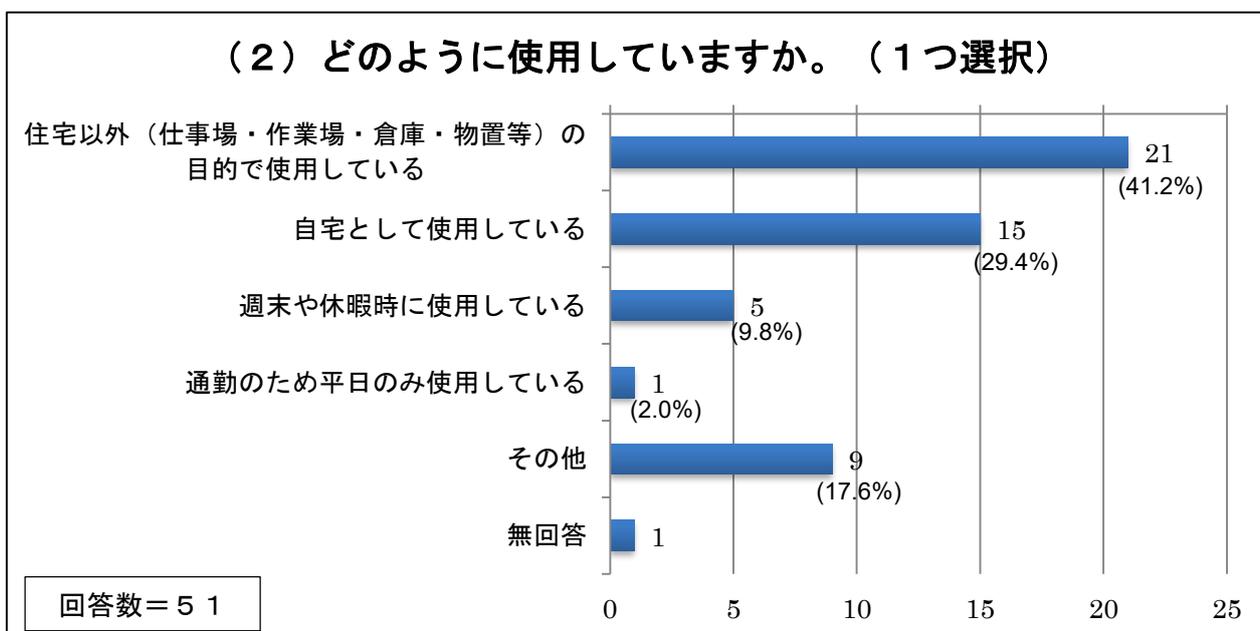
問2 対象住宅の使用状況について、お伺いします。



79件のうち、対象住宅を「使用している」という回答が51件であった。

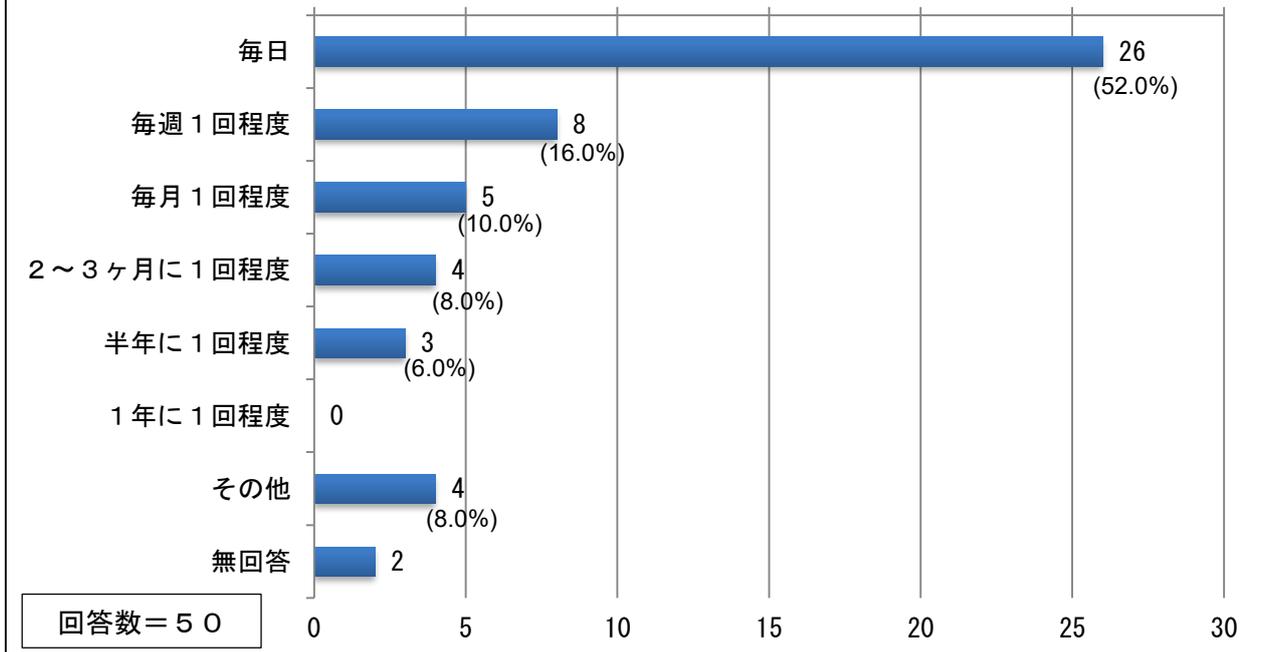
なお、「使用している」と回答した場合は、次の(2)に進むこととした。

また、「使用していない」もしくは「無回答」と回答した28件の所有者については、【問3】へ進むようにした。



外観上では、空き家であると判断したものの、住宅以外の目的や週末、休暇時に使用するなど、「二次的住宅」として使用していた。

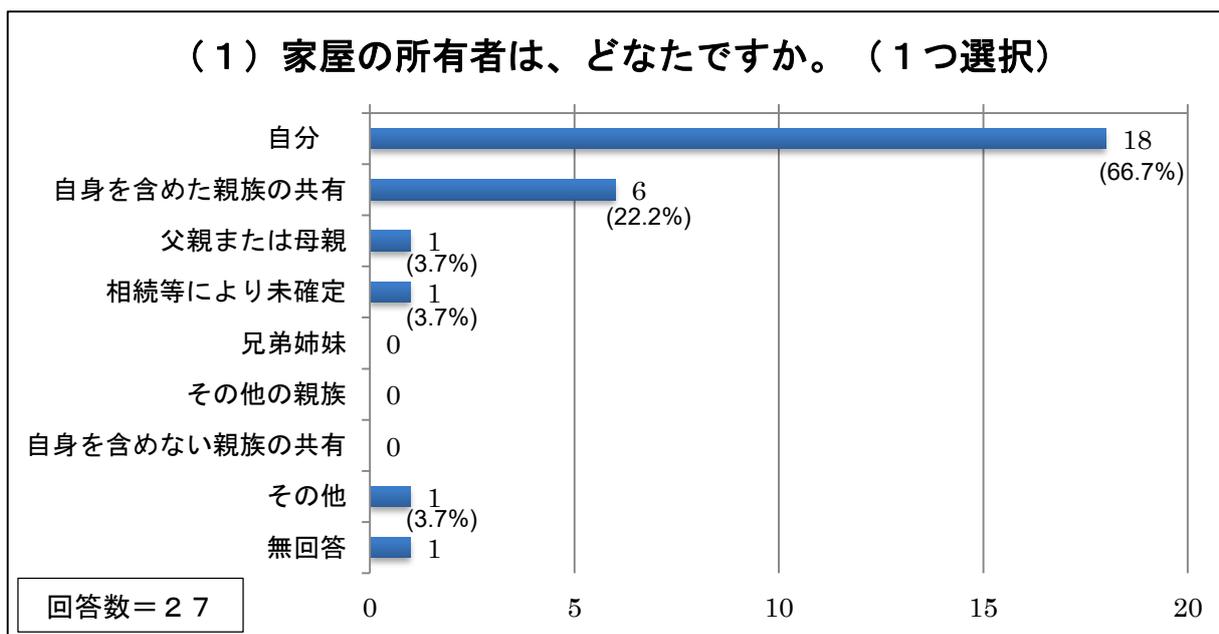
(3) 利用頻度はどのくらいですか。(1つ選択)



住宅以外の目的として「仕事場・作業場・倉庫・物置等」に使用していることから「毎日」使用しているという回答がほとんどであった。

なお、問2(1)で「使用している」と回答した場合は、本設問をもってアンケートを終了とした。

問3 対象住宅の所有者について、お伺いします。



◎ 「自分」「父親または母親」「兄弟姉妹」「その他親族」を選択した場合、年代を記入

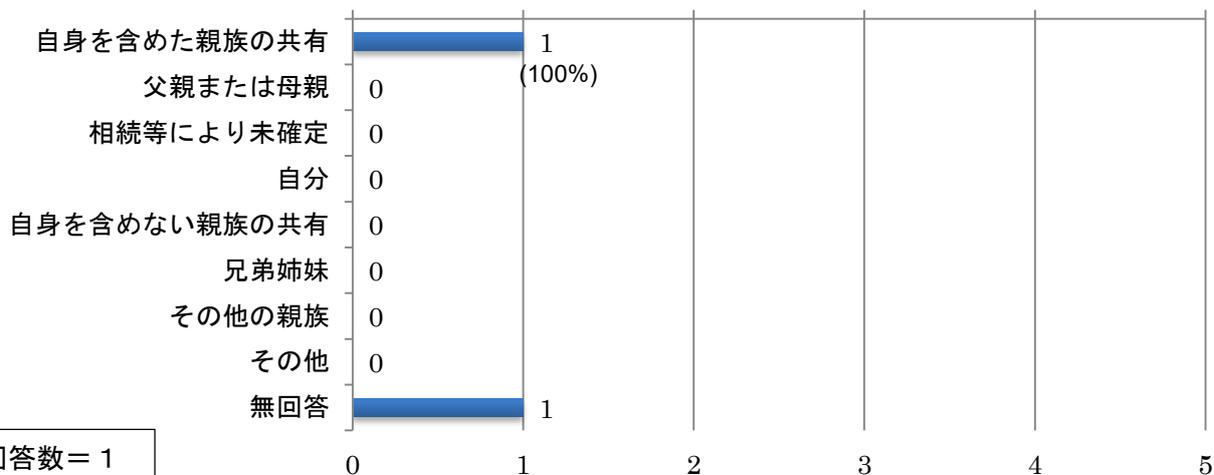
年代	回答数	回答率
10代	0	
20代	0	
30代	0	
40代	1	5.9%
50代	2	11.8%
60代	7	41.2%
70代	2	11.8%
80代	5	29.4%
90代以降	0	
無回答	2	

問2(1)で「使用していない」もしくは「無回答」の28件の所有者のうち、家屋の所有者は「自分」であるという回答がほとんどであった。

また、「自分」「父親または母親」「兄弟姉妹」「その他の親族」と回答した場合は、年代を記入することとし、「60代」が7件で一番多く、次いで「80代」が5件であった。

住宅は、相続を伴うことが多いことから、高齢者が所有者となる傾向が高いと考えられる。

(2) 土地の所有者は、どなたですか。(1つ選択)

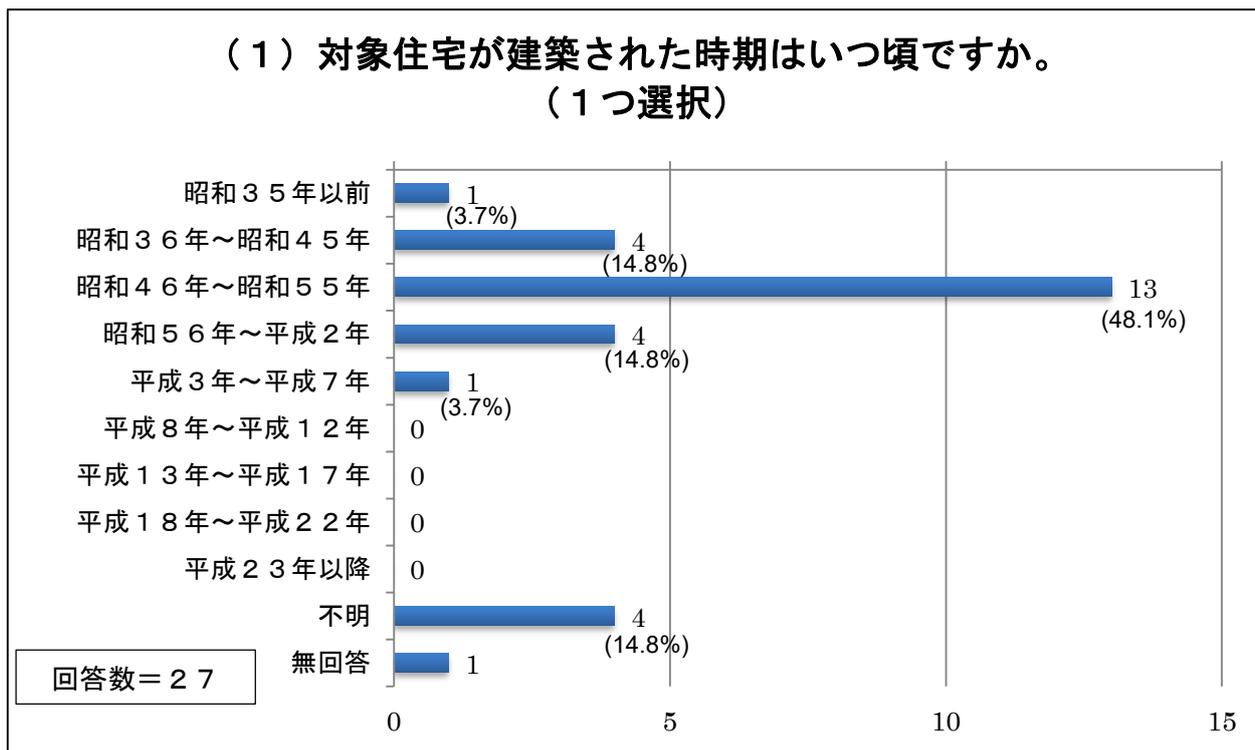


◎ 「自分」「父親または母親」「兄弟姉妹」「その他親族」を選択した場合、年代を記入

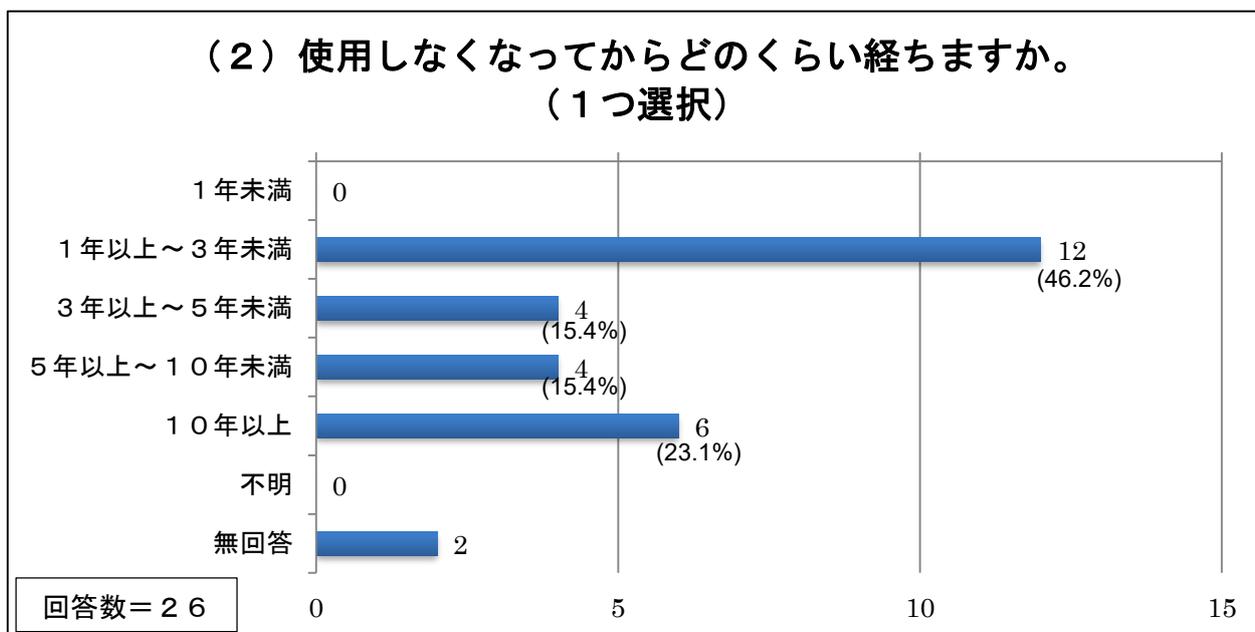
年代	回答数
10代	0
20代	0
30代	0
40代	0
50代	0
60代	0
70代	0
80代	0
90代以降	0
無回答	0

家屋と土地の所有者が異なる場合のみ回答することとし、所有者が異なる物件は1件に留まり、ほとんどが家屋と土地の所有者が同一であった。

問4 対象住宅の現状について、お伺いします。

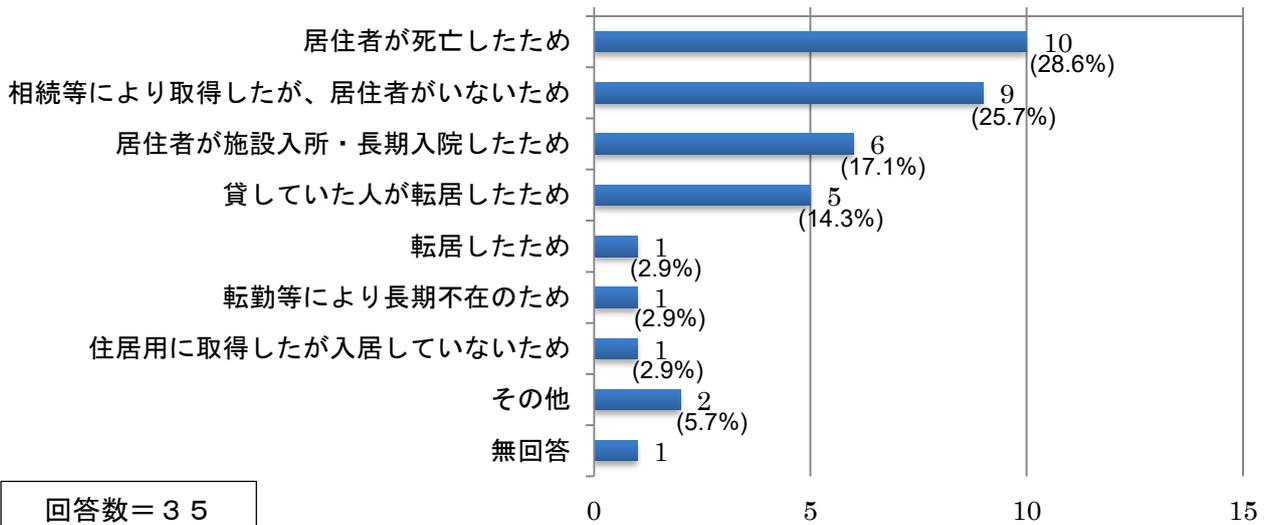


昭和55年以前の旧耐震基準に適合する住宅が18件であり、使用していない物件のほとんどは古い築年数のものであった。



「10年以上」使用していないという回答が6件で、長年使用されていない物件が多くあるものの、「1年以上～3年未満」という回答が12件で1番多く、使用しなくなってからあまり年月が経っていない物件の方が多かった。

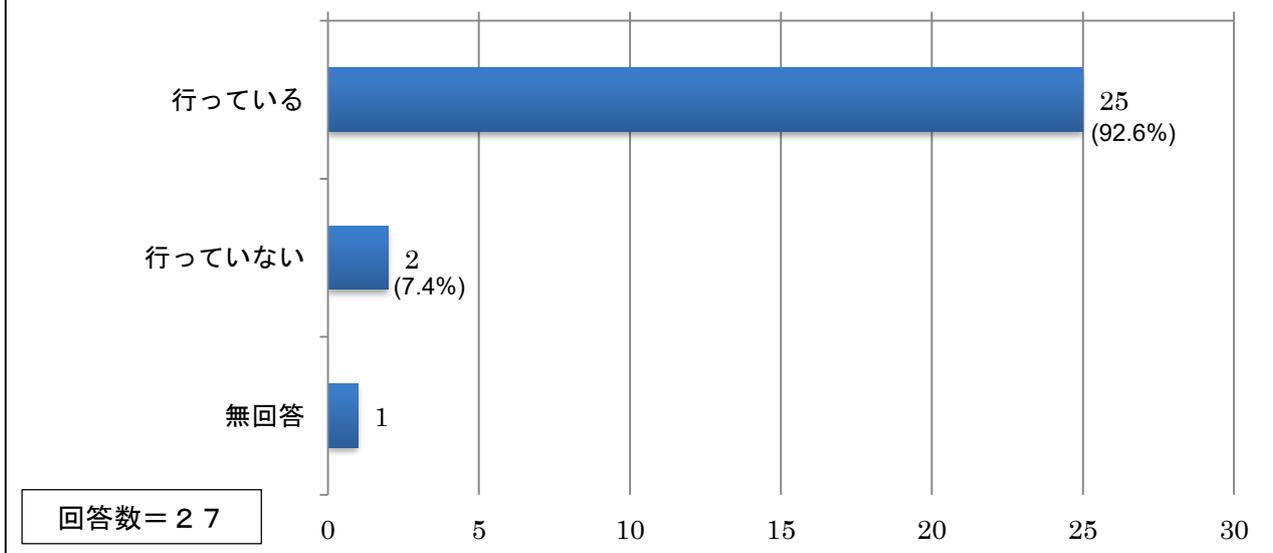
(3) 使用しなくなった理由は何ですか。(複数選択可能)



使用しなくなった理由として、「居住者が死亡したため」、「相続により取得したが、居住者がいないため」という回答が多く、核家族化により子ども世帯が親元を離れて生活しており、親世帯が住んでいた家屋を使用せずそのまま空き家となったものと考えられる。

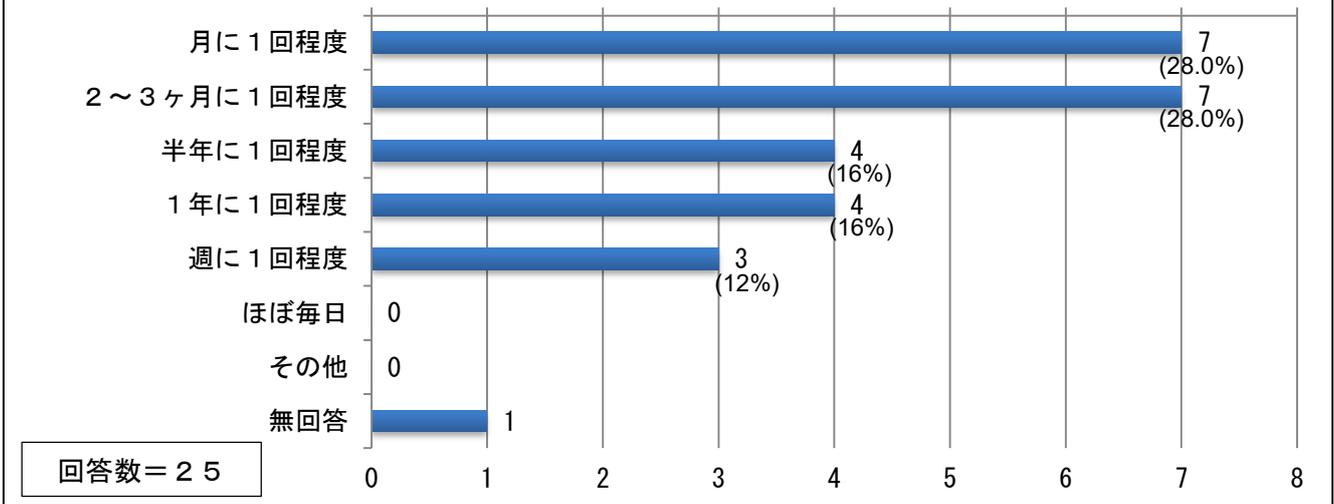
問5 対象住宅の管理について、お伺いします。

(1) 対象住宅の管理を行っていますか。(1つ選択)



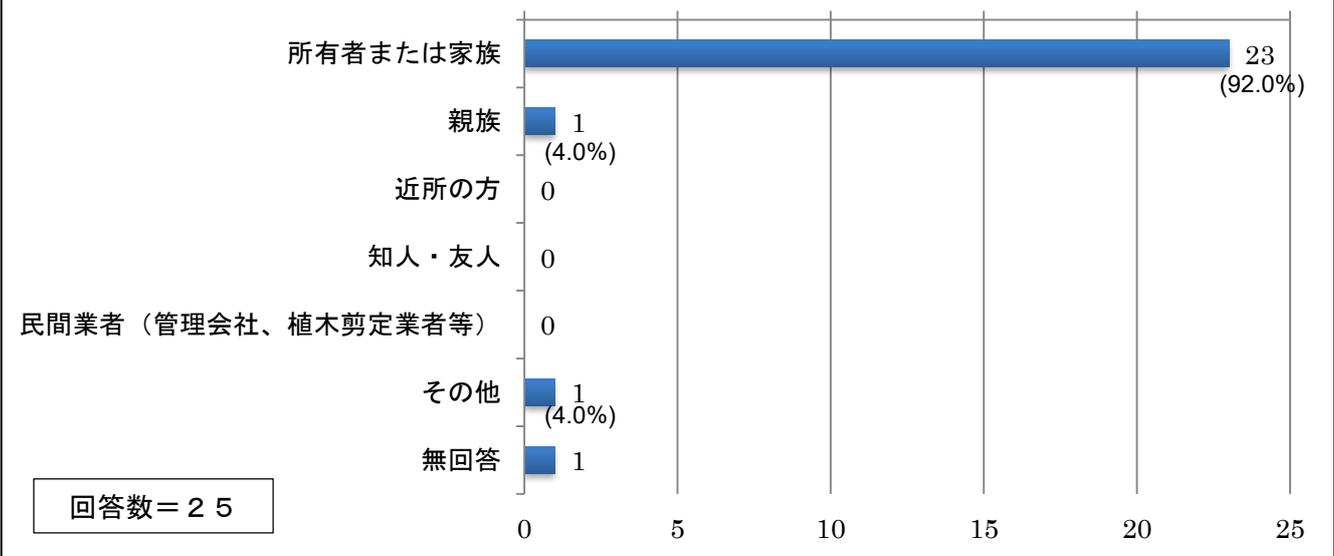
住宅を使用していないものの、管理は「行っている」という回答が25件でほとんどであった。「行っている」と回答した場合は、次の(2)に進むこととした。

(2) 管理はどのくらいの頻度で行っていますか。
(1つ選択)



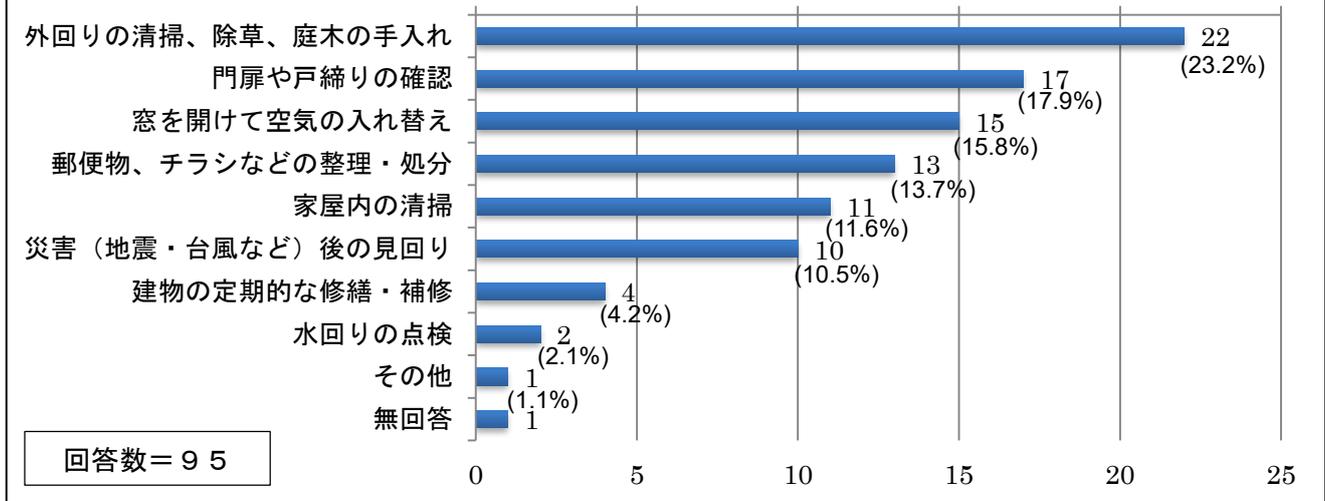
問5(1)で「行っている」もしくは「無回答」の26件のうち、住宅の管理は「月に1回程度」「2~3ヶ月に1回程度」行っているという回答がそれぞれ7件と多く、比較的短い期間で定期的に管理を行っていた。

(3) 管理はどなたが行っていますか。(1つ選択)



管理は、「所有者または家族」が行っているという回答がほとんどであり、近所の方や民間業者に依頼するなどの回答はなかった。

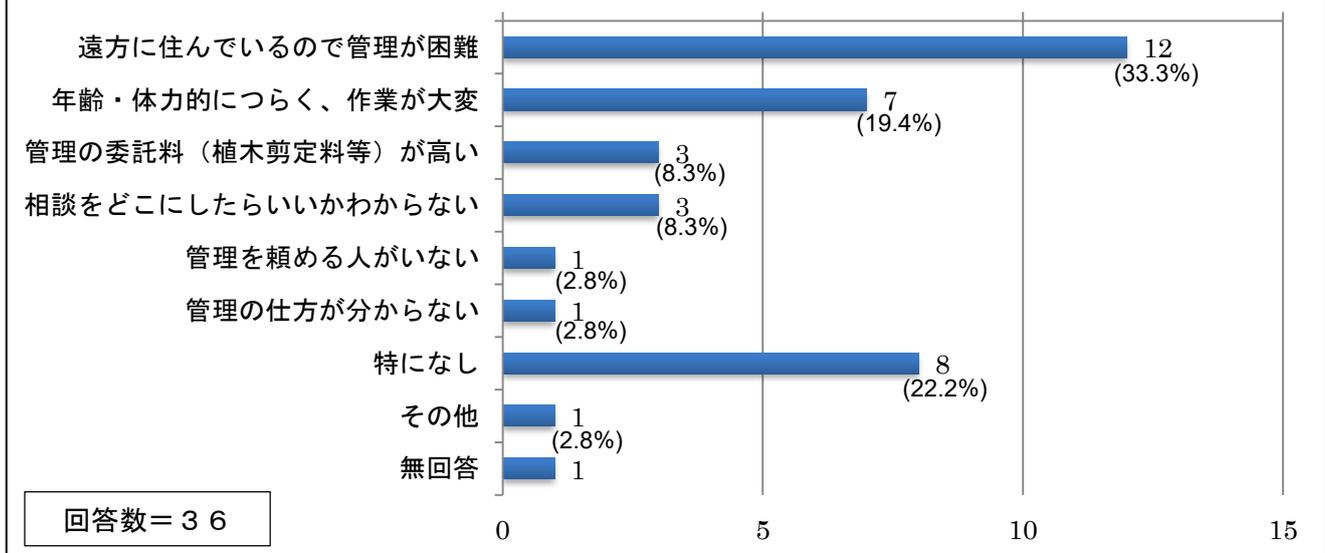
(4) 管理はどのようなことを行っていますか。
(複数選択可能)



管理の内容としては、「外回りの清掃、除草、庭木の手入れ」が22件で1番多く、近隣住民への配慮が窺われる。

また、複数回答している所有者がほとんどであり、一度物件へ行った際様々な管理を行っていた。

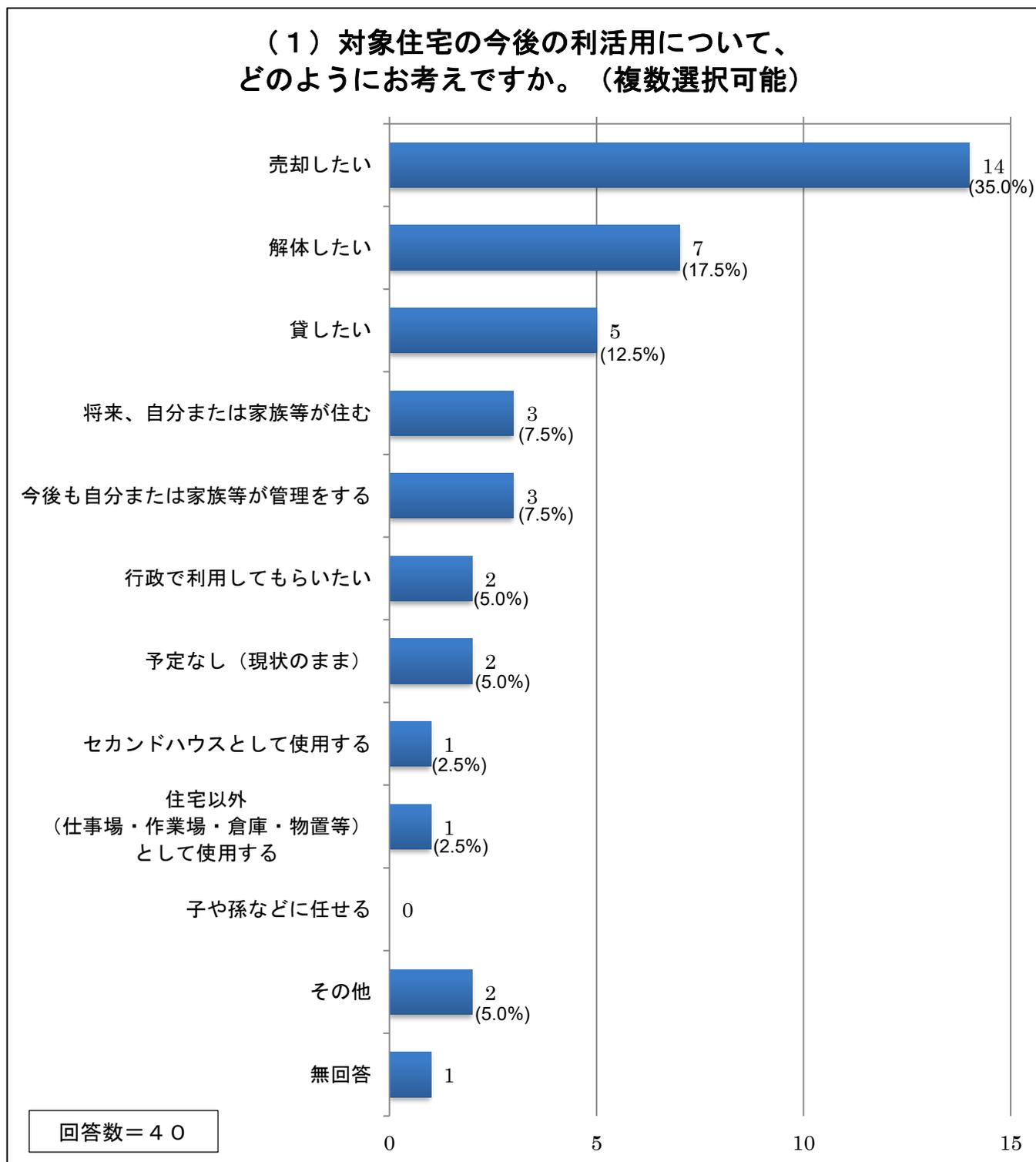
(5) 管理で困っていることは何ですか。(複数選択可能)



管理を行っている所有者は多くいるものの、「遠方に住んでいるため管理が困難」という回答が12件で一番多かった。

また、所有者の多くが高齢であることから、「自ら作業を行うことが大変」という回答も7件と多かった。

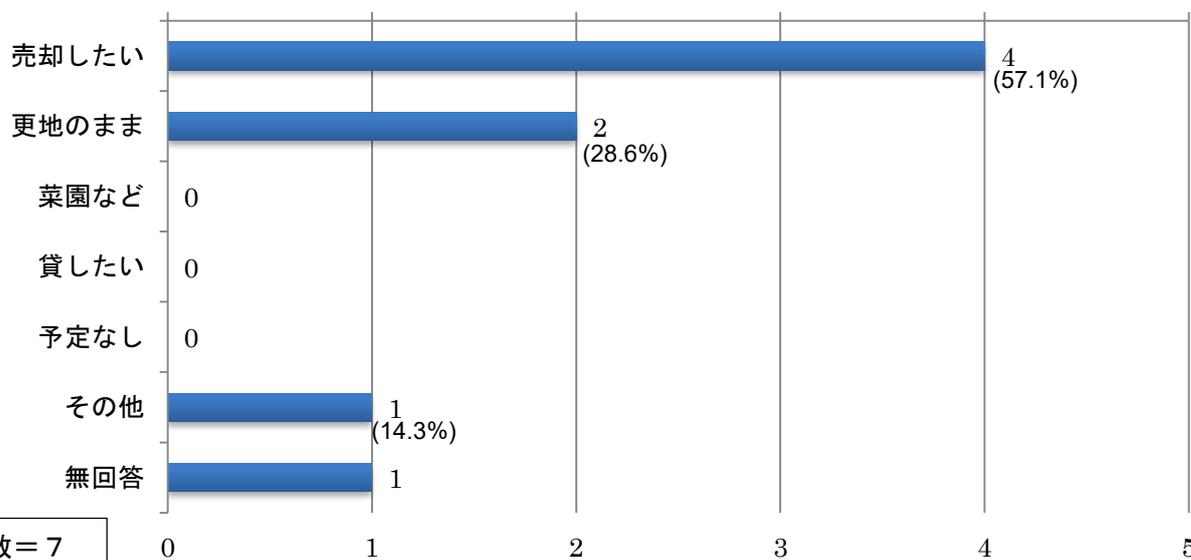
問6 対象住宅の今後の利活用について、お伺いします。



今後の利活用の意向として、「売却したい」という回答が14件で一番多く、次いで「解体したい」が7件であり、家屋を手放したいという考えをもつ所有者が多くいた。

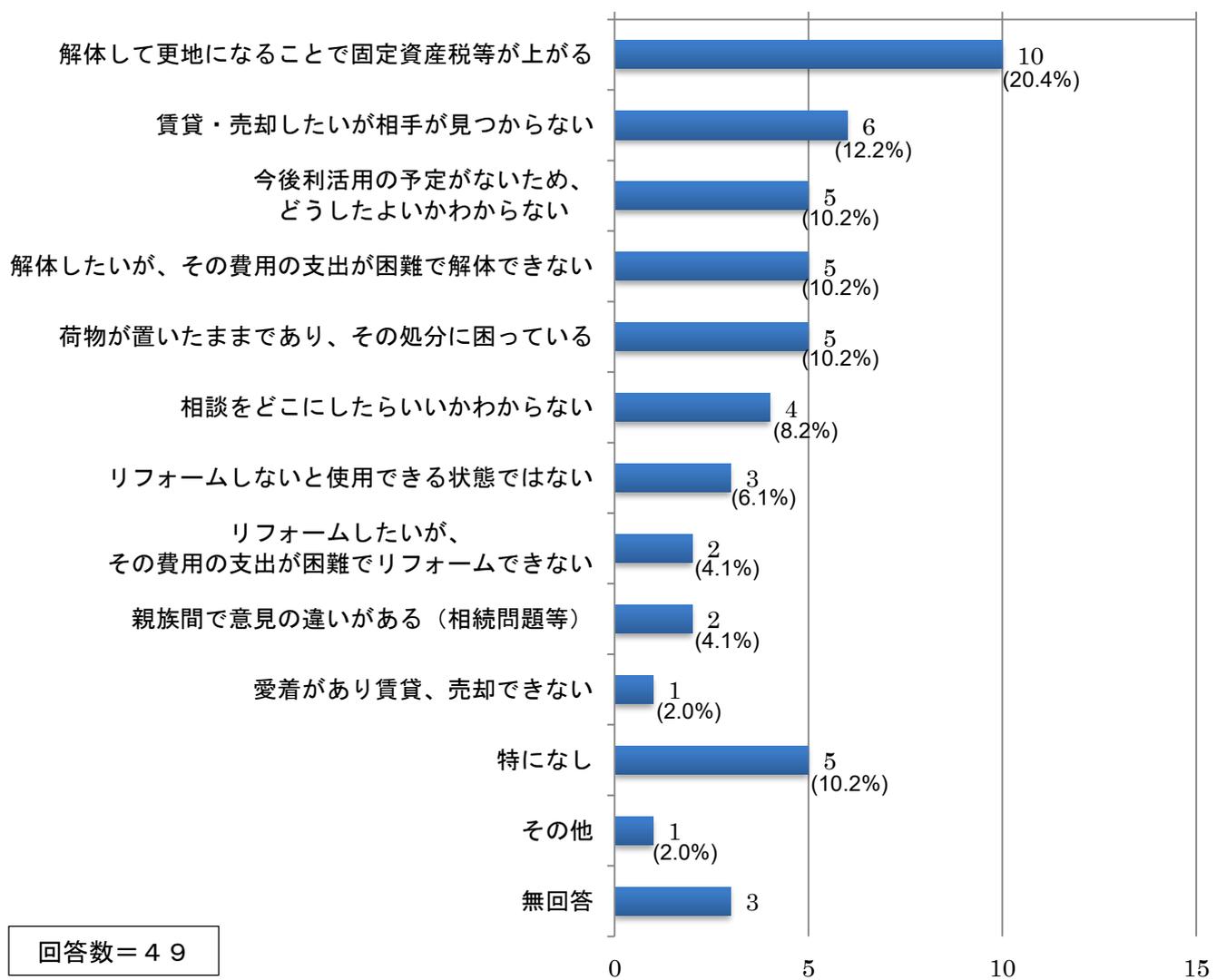
なお、「解体したい」と回答した場合は、解体後の土地をどのように活用したいかを聞くこととした。

◎解体後の土地をどのように活用されますか。（1つ選択）



解体後の土地は、「売却したい」という考えの所有者が一番多かった。
また、利活用せず「更地のままにしておく」という考えの所有者もいた。

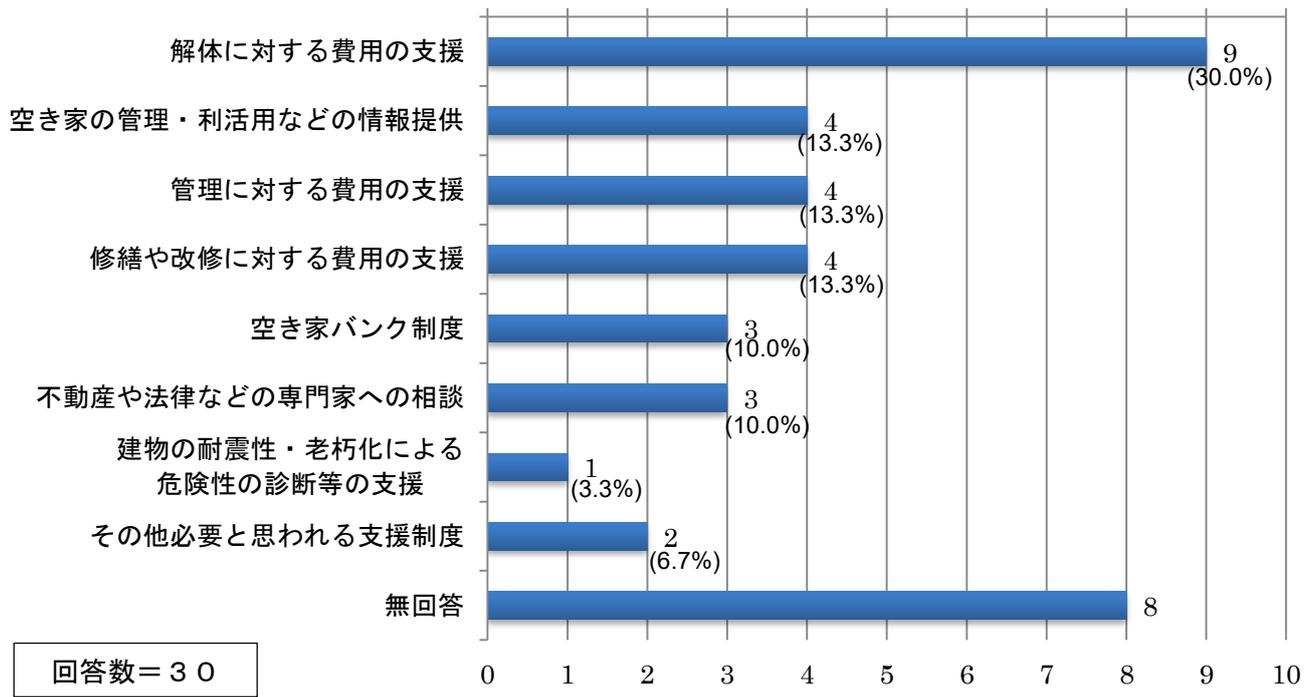
(2) 今後の利活用について、心配事や困っていることはありますか。(複数選択可能)



今後の利活用について所有者が心配していること、困っていることについては、解体したいという意向はあるものの、「解体して更地になることで固定資産税等が上がること」を懸念していた。

また、賃貸や売却したいという思いから市場に流通したものの、「相手が見つからない」という回答も多くあった。

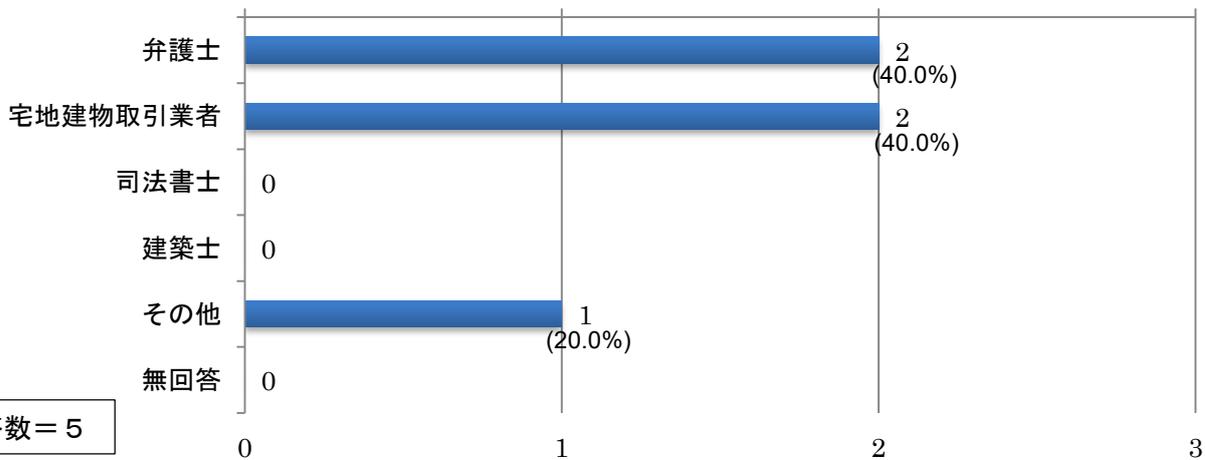
(3) あれば利用したい支援制度等がありますか。
(複数選択可能)



支援制度として、「解体費用の支援」が9件と1番多く、次いで「空き家に関する情報提供」「管理費用の支援」「修繕や改修費用の支援」がそれぞれ4件と並び、費用に関する支援を望む回答が多かった。

なお、「不動産や法律などの専門家への相談」と回答した場合は、どのような専門家に相談したいかを聞くこととした。

◎どのような専門家に相談したいですか。(複数選択可能)



相続や権利関係、家屋の売却に関することの相談先として「弁護士」「宅地建物取引業者」と相談したいという回答がそれぞれ2件ずつであった。

問7 住宅の管理や活用などについて、市に対して御意見・御要望がありましたら御自由に御記入ください。

- ・売却したいが崖条例があり困難
- ・賃貸募集中
- ・空き家であっても、第2の故郷である
- ・相談先を教えて
- ・市に寄付し、利用してもらいたい
- ・思い出のある家である。
近所に保育施設が建ち騒がしくて住めなくなった。
本当はその家屋に戻りたい。(市に対する意見が便せん3枚)
- ・空き家に対する職員の教育が必要